



「食生活を変えた」という話し

年が明けて早や一週間がすぎ、正月気分は大分抜けて日常モードに移行しつつある▼元旦は朝起きて、まず自宅から1キロほど東にある神社に初詣。家に戻って我が家恒例で、家内の箏と私の尺八での合奏。曲目は千鳥の曲と春の夜。演奏が終わってから朝食兼昼食。お屠蘇気分で日本酒による乾杯をしておせちをいただく。少し間を置いてからお雑煮と、粒あんのお汁粉というかせんざいが出る。これを毎年繰り返して正月気分に戻る▼翌2日からは息子夫婦に孫と、孫見たさで一緒になった嫁の両親とで、2泊3日の「協同生活」。夜は酒を飲みながらいろいろな話となる。嫁の両親は2年ほど前から、手が回らず耕作放棄化している親戚の農地を借りて野菜作りを始めた。そうしたこともあって最近の食料安全保障問題についての関心は高く、自分でできることはやる、ということ食生活を変えたという▼これまではご飯を食べたりパンを食べたりしていたものを、基本はご飯に。たまにパンが食べたくなったりときは米粉パンを購入。肉を食べるときにはできるだけ飼料米や飼料イネも供給して育ててられたものをいただく。さらに天ぷらのころもには米粉を利用するようにした、とのこと。国産のものを食べて自給率を上げる、これを徹底するところとした食生活になったとか。まさに我が意を得たり、の話で、これを実践していることに拍手喝采した次第▼この基本にあるのは、水田を畑作化して多様な食生活を維持する以上に、米を中心とした食生活に変えることによって容易に自給率向上は可能ということだ。日本が持つ生産資源と食生活のマッチングが重要ということだが、こうした正論が大きくは取り上げられない食料安全保障論議が不思議でならない。

(土着菌)